



協働センターの事業特集号 ～この一年を振り返って～

「伝える」チラシのつくり方

そのチラシ、伝えたい人に伝わるコツがあります！

10/15 19:00-21:00

講師 三鷹市市民協働センター 協働課長 佐藤 浩一

1. 伝える目的を明確にする
2. 伝える内容を整理する
3. 伝える方法を考える
4. 伝える場所を考える

2025 第8期 三鷹「まち活」塾

好きなコト × できるコト × やりたいコト × まちのデザイン

1. 地域課題の発見
2. 地域課題の解決
3. 地域課題の発信

2025 11/29 Sat 11/30 Sun

第23回 みたかまち活フォーラム

会場 三鷹市市民協働センター

主催/NPO 法人みたか市民協働ネットワーク
協力/三鷹市

「みたかスペースあ」から生まれたもの

9/1 19:00-20:00

講師 三鷹市市民協働センター 協働課長 佐藤 浩一

「ことぶき」に学ぶ 多様な主体と協働し 命と暮らしを守る 地域づくり

3/8 12:30-15:30

KOTOBUKI

11/29-11/30 2日間

7/24 19:00-21:00

7/24 19:00-21:00

物販&飲食 出店者募集

10/24 19:00-21:00

募集

19

ほろよいトークサロン

12/12 18:30-20:30

3/6

だれでもランチカフェ

2/28 sat

4月12日

市民活動ふらっとサロン

2025年 6/13 7/11 8/8 9/12 10/10 11/14 12/12
2026年 1/9 2/13 3/13

育パパ座談会

2025.11.29 sat, 15:00-17:00

1 2 3 4 5 6 7 8 9

- 1 市民活動を支える情報発信講座「伝える」チラシのつくり方
- 2 第8期三鷹「まち活」塾
- 3 市民活動紹介のためのトークサロン「みたかスペースあから生まれたもの」
- 4 「ことぶき」に学ぶ 多様な主体と協働し 命と暮らしを守る 地域づくり
- 5 ほろよいトークサロン
- 6 だれでもランチカフェ
- 7 第23回みたかまち活フォーラム リーフレットと関連チラシ
- 8 市民活動ふらっとサロン
- 9 集まれ！育パパ座談会

～ 住民の「生きる」を支えるネットワークとは ～

高齢化率が50%を超え、95%近くが生活保護の受給者である横浜市寿町。このまちで医療に携わる金子惇さんと、住民主体のまちづくりを支援する「ことぶき協働スペース」施設長の徳永緑さんをゲストにお迎えし、それぞれの立場で、住民の「生きる」を支えるためにどのような活動と実践を行っているかお話を伺いました。

お二人のお話から、「課題を抱える方たちの社会的背景を知ること」「当事者性」「他者の合理性への理解」「さまざまな専門職との連携」など、大切なキーワードと、まちの課題解決のためのヒントをいただき、学びの多いシンポジウムとなりました。



金子 惇さん



徳永 緑さん

参加人数：46人

進行役：加藤明子さん（みたか市民協働ネットワーク）

協働センターインタビュー企画

第1回「NPO 法人グレースケア機構」



第2回「三鷹中央通り商店会」



みたかのまちの「あの人」にインタビューをして地域の魅力を再発見、記事を随時HPにアップします。記念すべき1回目はNPO法人グレースケア機構代表の柳本さん。事業を始めるきっかけや思いなど、あれやこれやとお聞きしました。第2回は三鷹中央通り商店会代表理事の広瀬さんのところへ。お店の歴史、まちのこれまでとこれから…聞けば聞くほど面白く時間が足りなくなりました。インタビューはNPO法人文化学習協同ネットワークの若者が勤めています。HPで！ぜひお読みください。

インタビュー記事はコチラ →



sns

つなぐ・つながる

三鷹市市民協働センター
をフォローください。



facebook



Instagram



X



HP

第23回みたかまち活フォーラム



「まちを元気にする活動＝まち活」をもっと身近に感じてほしい。そんな思いから名称を改め、新たな一歩を踏み出した「みたかまち活フォーラム」。多くの市民の皆さんにご参加いただいた「作戦会議」から生まれた各プログラムは大盛況。今年はキッチンカーなどの飲食・物販も拡充し、会場はにぎわいを見せました。

多彩なプログラムを通じて地域とつながる楽しさを共有し、新たな絆が着実に芽生える瞬間を肌で感じる二日間となりました。この交流が、三鷹の街をより豊かに彩る種となることを確信しています。

参加団体数：冊子 36 団体、展示 28 団体、販売 11 団体
プログラム参加人数：延べ 340 人

第1回みたかコーディネーター交流会



分野を越えた「つなぎ役」のネットワーク構築と情報共有を目的に交流会を開催しました。当日は社会福祉協議会や地域包括支援センター、住民協議会の皆さんに加え、当法人のスタッフも参加。組織の垣根を越えて活動の現状や課題を共有し、「他業種と繋がる貴重な機会になった」「共通の悩みを相談できる場を継続してほしい」などの反響をいただきました。

今後も同様の交流の場を設け、現場のニーズに基づく研修を実施していく予定です。中間支援に携わる人材の顔の見える関係を育み、地域を支える基盤を強化していきます。

参加人数：18 人
ファシリテーター：山下慶子さん、田邊健史さん（みたか市民協働ネットワーク）

市民活動紹介のためのトークサロン 「みたかスペースあい」から生まれたもの



空き店舗を活用して生まれた「みたかスペースあい」は、当法人と三鷹市を含む7団体との協働により生まれたコミュニティスペースです。誕生から10年の間に生まれた出会いや活動がまちに何をもたらしたのか、三鷹中央通り商店会代表理事の広瀬充弘さんとミタカエリアデザイン代表の笠置秀紀さんに伺いました。スペースがあるからこそ人と人、想いと想い、さまざまな出会いがあり、そこから「あるけるミタカ研究所」やコンポストを活用した「パブリックソイルクラブ」、「グリーンインフラ100プロジェクト」など、たくさんの活動が生まれた様子を伺いながら、公共空間の活用に大きな可能性を感じました。

参加人数：37 人
ゲスト：広瀬充弘さん（協同組合三鷹中央通り商店会 代表理事）
笠置秀紀さん（一般社団法人ミタカエリアデザイン 代表）

市民活動を支える情報発信講座 「伝わる」チラシの作り方



杉並区広報専門監の谷浩明さんを講師に迎え、チラシづくりのコツと広報の極意を学びました。「デザインは思いやり」という言葉を視覚化する試みとして、参加者とスーパーボールを使ったキャッチボールを行い、たくさんのボールを同時には受け止められないことを実演し、情報を盛り込みすぎがちな広報を手にしたときの、受け手の反応を如実に知ることができました。

参加団体のチラシの添削タイムでは、タイトルの重要性に着眼し、イベント内容やその楽しさを直球で伝えることが、情報の受け手に行動を起こさせる大切な鍵となることを実感。市民活動の広報担当者に響く講座でした。

参加人数：41 人
講師：谷 浩明さん（コミュニケーション・デザイナー、杉並区広報専門監）